



株式会社フォーカスシステムズ

2022年3月期第2四半期決算説明会

2021年11月22日

イベント概要

[企業名]	株式会社フォーカスシステムズ
[企業 ID]	4662
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期
[日程]	2021 年 11 月 22 日
[ページ数]	16
[時間]	10:00 – 10:16 (合計：16 分、登壇：16 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 森 啓一（以下、森）

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

森：こんにちは。フォーカスシステムズ、代表取締役社長の森でございます。本日は当社の第2四半期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

本日は第46期、第2四半期の業績についての概要とともに、財務面の状況、今期の業績予想をご説明いたします。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

決算概況

Focus Systems

売上高・各利益ともに、第2四半期累計期間における過去最高を記録

売上高営業利益率は6.6%に改善（前年同四半期比0.5ポイント増加）

（単位：百万円）

	2021/3期				2022/3期		前年同四半期比	
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	増減額	増減率
売上高	5,407	11,234	17,149	23,485	6,031	12,489	1,254	11.2%
営業利益	322	687	1,126	1,450	302	821	133	19.4%
経常利益	328	699	1,139	1,469	306	770	71	10.2%
四半期(当期)純利益	216	482	774	1,025	204	522	39	8.1%

4

© 2021 Focus Systems Corporation

まず決算の概況です。22年3月期の第2四半期の実績は、売上高、利益ともに過去最高を記録いたしました。

売上高は124億8,900万円、営業利益8億2,100万円、経常利益7億7,000万円、四半期純利益5億2,200万円という結果になりました。いずれも昨年同期に比べ、売上高が11.2%の増加、営業利益は19.4%、経常利益10.2%、純利益8.1%の増加となりました。

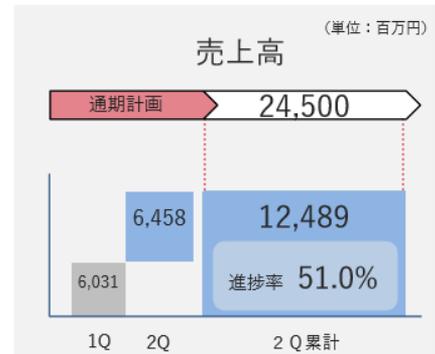
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

通期計画に対し、全指標50%を超える進捗

- 第2四半期は新型コロナウイルス感染症第5波渦中も、事業は順調に進捗。
- 会社全体では、攻めの新規開拓で第1四半期の減益を巻返して着地。



5

© 2021 Focus Systems Corporation

実際、この計画に対して、全てに対して全指標の50%を超える進捗となっております。

第2四半期に関しましても、新型コロナウイルス感染症の影響は日本中にありましたけれども、実際、当社といたしましては事業は順調に進捗しております。

また第1四半期では昨年同期比を下回る結果になりましたけれども、第2四半期におきましてはそれを挽回しまして、いずれにおいても50%以上の進捗となっております。

特に売上高に関しましては現在、昨年同期に対して10%以上の増加となっており、このまま順調にいけば増収増益の発表もしなきゃいけないかなという状況ですけれども、今こちらに関しては各現場のほうに確認をして、状況を確認している状況となっております。

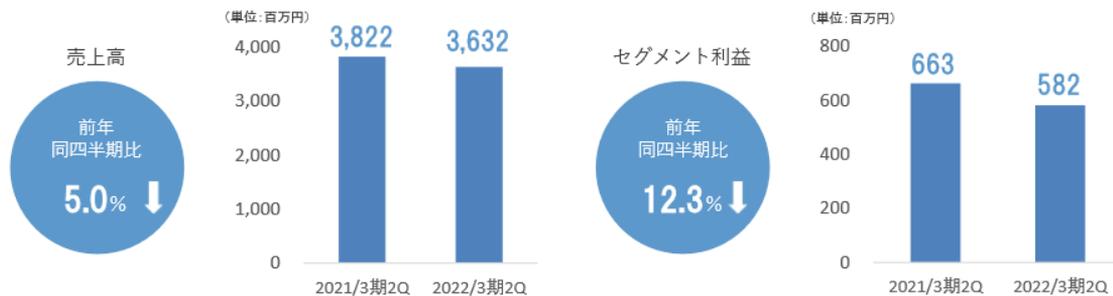
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造からシステム稼働後の運用・保守

主に前年同四半期に業績を押し上げた大型案件の反動減により、減収減益



- 当第2四半期累計期間の業績は、概ね計画通りに進捗。（反動減は織込み済）
- 下期巻返しに向けて、引き続き、新規案件の獲得・既存案件の拡充に注力。

6

© 2021 Focus Systems Corporation

続きまして、各セグメント別の概況となります。

弊社は四つのセグメントに分けておりますけれども、まずこの公共関連におきましては、昨年同期に比べまして売上高、セグメント利益ともに減少しております。

これは昨年同期に比べますと、昨年前半が非常に公共、順調でした。その反動減によって、大型案件の収束もありまして、減収減益という結果となっております。

ただ、こちらは計画値に対しては、ほぼほぼ計画どおりに進捗しておりますので、通年を通しては計画どおりの売上高、利益が見込めるのではないかと考えております。それを受けて、売上高に関しては前年同期に比べて5%の減少。利益は12.3%の減少というかたちになっております。

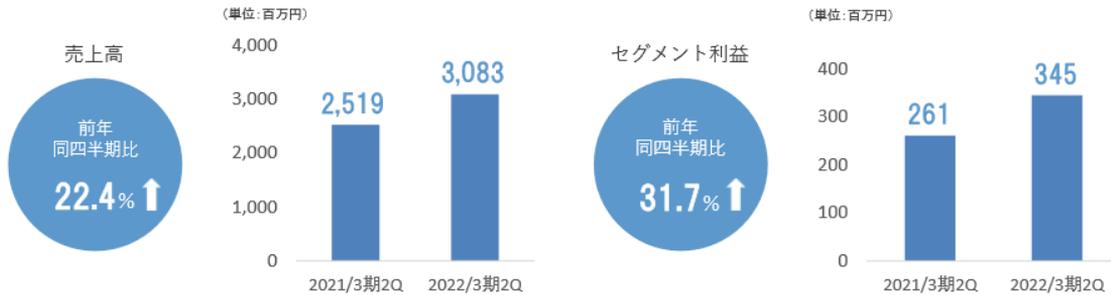
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

民間と地方自治体の旺盛なシステム投資需要を着実に取込み、増収増益



- コロナ禍中での戦略的な新規案件の開拓が奏功し、新型コロナウイルス感染症の影響を跳返して成長軌道に。
- ネットワークセキュリティ・クラウド等製品ラインアップを一層充実させ、withコロナ需要取込みが加速。

7

© 2021 Focus Systems Corporation

エンタープライズは売上高、利益ともに昨年同期と比べて、非常に順調に増加しております。売上高にしましては 22.4% の増加。利益にしましては 31.7% の増加となっております。

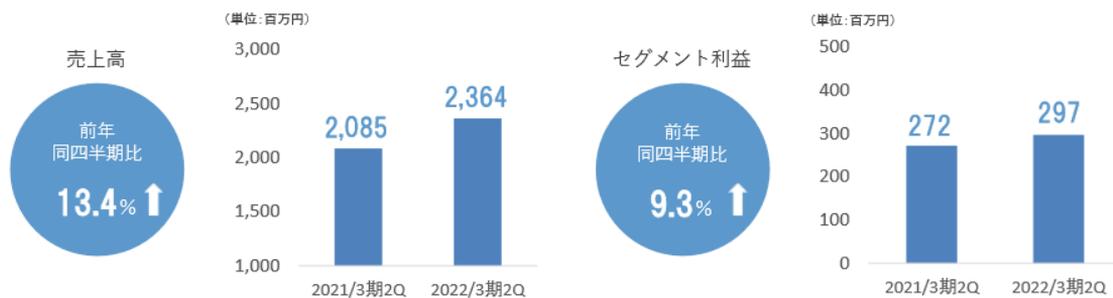
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

コロナ禍における成長業界を捉えた重点営業が奏功し、増収増益



- 総じて既存案件を手堅く進めつつ、新規案件獲得にも注力し、着実に実績を積上げ。
- ローコード開発案件等も積極的に取込み、商機を拡大。

8

© 2021 Focus Systems Corporation

また広域ソリューション。こちらは東京以外に名古屋、大阪もありますけれども、そちらも順調に伸びております。

売上高に関しては13.4%の増加、そして利益に関しては9.3%の増加となっております。

こちら東京、大阪は非常に順調に伸びているんですけども、若干、名古屋が苦戦していることもあります。ただ、通年を通してはほぼ計画どおりに推移するのではないのかなと思っております。

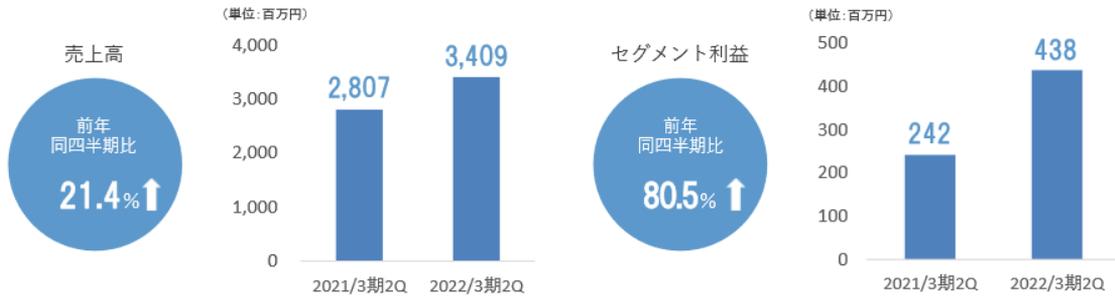
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム構築、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

安定の事業基盤とセキュリティ関連製品拡販が成長をけん引し、増収増益



- 顧客の課題・本質的なニーズにしっかりと応え、開発案件等の拡大により事業基盤を一層強化。
- 自社製品群のうち、主にセキュリティ関連の製品とソリューションが第2四半期成長を押し上げ。

9

© 2021 Focus Systems Corporation

イノベーション事業もご覧のとおり非常に順調に推移しておりまして、特に利益のほうは前年同期比 80.5%というかたちになっております。

こちらは主な理由といたしましては、このイノベーション事業の主要な顧客である日本アイ・ビー・エムさんなんですけれども、この日本アイ・ビー・エムさんが分社化をいたしました。

キンドリルという会社に分割したんですけれども、そのどちらにおいても弊社としては同じようにお付き合いを今後していくかたちで、両方から仕事がかかることもありまして、非常にこちらは順調に推移している状況となっております。

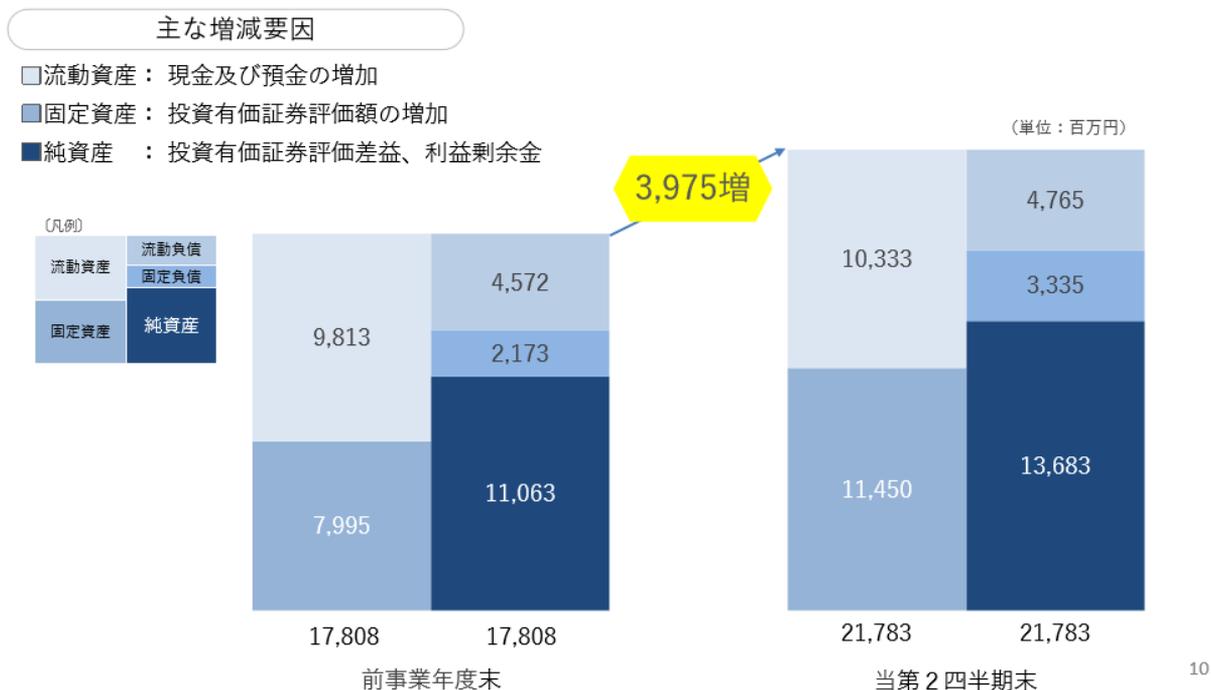
またここはセキュリティ関連の製品も持っているんですけども、製品の販売に関しましても、下期に計画していた売上が上期のほうに乗かってきたこともありまして、それも利益を押し上げる原因となってきたということです。

ただ、この利益が下期も通して数年でこのようなかたちで増加するかというと、こちらはほぼほぼ計画はクリアするんじゃないのかなとは思っておりますが、ここまで利益が伸びることはないところでは聞いております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

主に政策保有先の投資有価証券評価額が大幅に増加



続いて貸借対照表です。前年度末から第2四半期末まで約6カ月で、総資産が39億7,500万増えております。

これは主な原因といたしましては、投資有価証券の評価差額金によるものです。これは弊社の筆頭株主でもあるFRONTEOが、非常に今、株価が連日高値を付けていることもあって、その影響もあって弊社としては総資産の額が増えているということになっております。

また先ほどもありましたように、売上、利益も好調ということもあって、現金、預金も増えております。

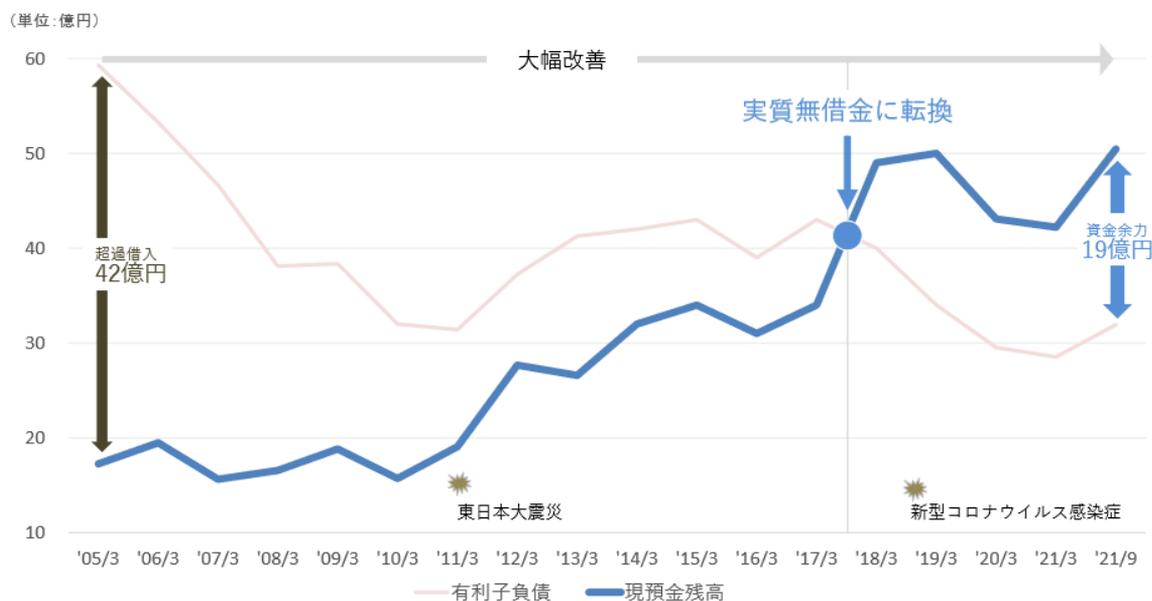
それでこちらのほう、会社として現金が増えるのもありがたいことですし、含み益が増えることも非常に会社としては嬉しいことであるんですけども、会社としてはそういった、お金を何に投資していくのか。どういったかたちでそれを使っていくのかも、会社の成長においては欠かせない問題となっていきますので。

そちらに関しては、会社として、今まだ若干市場が不透明なこともありますけれども、そちらもある程度予測しながら、会社として一番良い使い道、投資等にも、そういったことも考えて、会社としても新たな付加価値をつけるべく、経営を考えていきたいなと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

持続的な“財務体質の強化サイクル”を実現
【事業シーズに対する十分な投資余力の確保】と【事業継続力の担保】



11

© 2021 Focus Systems Corporation

次が貸借対照表で、借入のグラフになるんですが、2005年の3月期に超過借入が42億円あったのが、途中で実質無借金に変換して、今は資金余力、市場からの借入、銀行からの借入以上にキャッシュが19億円プラスになっているということで、この10年、15年かけて、会社としては非常に順調に伸びてきています。

そういった意味では毎年毎年、キャッシュというものが会社のほうに残るようになってきたと。そういう会社としての体質になってきたということが言えると思います。

ただ先ほども言いましたように、これが必ずしも会社にとってベストである、また投資家の方にとってベストのかたちであるとは会社としては思っていないので、こちらを本当にいかに有効なかたちで会社の今後の発展、成長に使っていくかが、より重要になるんじゃないのかなと私自身、考えております。

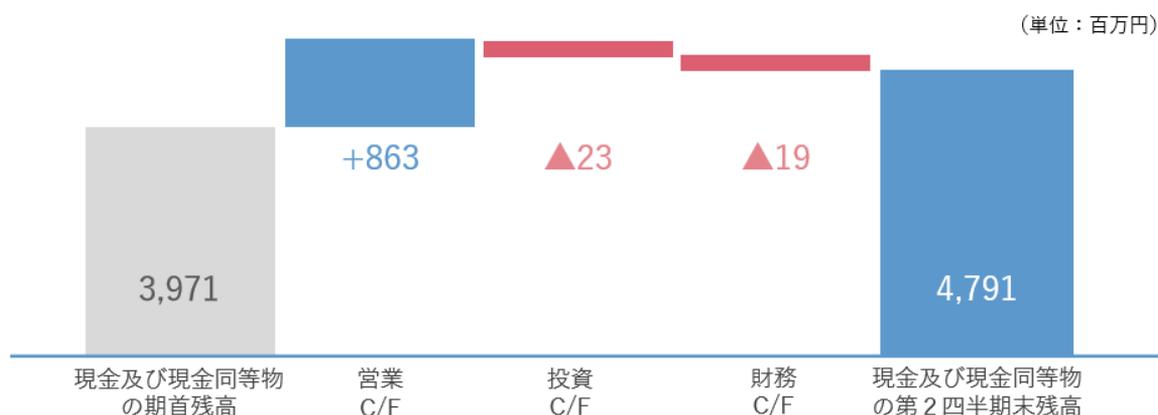
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業活動・設備投資・返済等が順調に進み、安定経営を継続

主な増減要因

- ・営業C/F：純利益ほか
- ・投資C/F：設備投資（情報システム投資等無形固定資産取得）ほか
- ・財務C/F：社債の償還、配当ほか



12

© 2021 Focus Systems Corporation

続いてキャッシュ・フローの状況です。

ご覧のとおり、営業キャッシュ・フロー、8億6,300万というかたちで順調に伸びています。これは純利益、当然通常の営業から増えたものです。

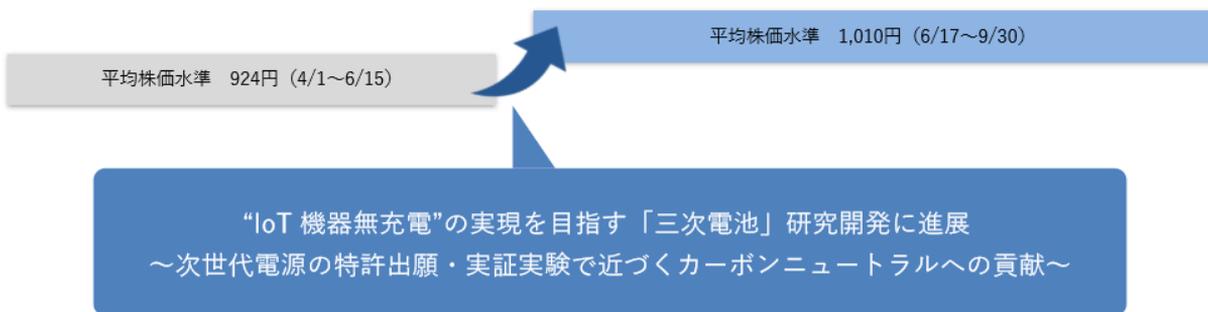
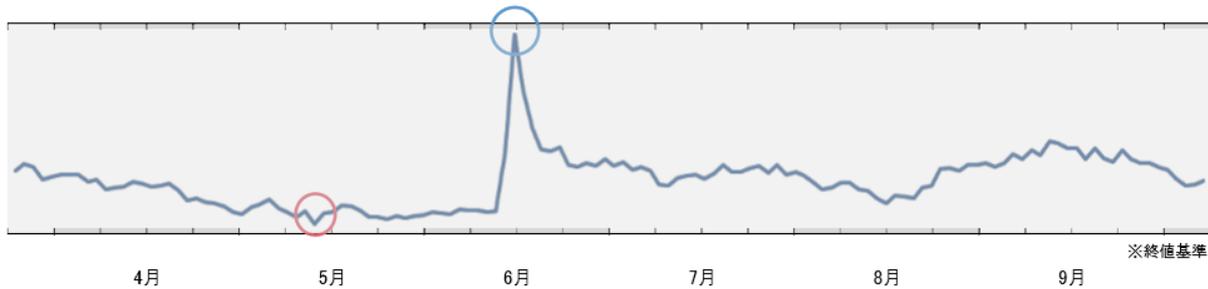
そして投資のキャッシュ・フロー、そして財務のキャッシュ・フロー、ともにマイナスになっておりますけれども、こちらは投資キャッシュ・フローにおきましては設備投資ですね。

これは社内的な情報システムの投資等による、無形固定資産の取得が主な内容になっておりますし、財務につきましては社債の償還、また配当等が出たことで若干、キャッシュアウトが出ましたけれども、それにしてもキャッシュは潤沢に会社として残っている状況が現状であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2021年6月16日に最高値を記録し、以来株価水準は平均で9.3%上昇



13

© 2021 Focus Systems Corporation

続いて株価の推移です。株価は6月に三次電池というプレスリリースをさせていただきました。それによって会社の株が一時、一気に上がりまして、その後、平均株価の水準が、その発表前に比べて約100円くらい上がっている状況となっております。

この三次電池ですけれども、実際今、実証実験をしているということなのですが。実証実験に使う材料が今、市場的にちょっと不足しているのもあって、そちらのまだ調達、なかなか順調にいかないこともありまして。

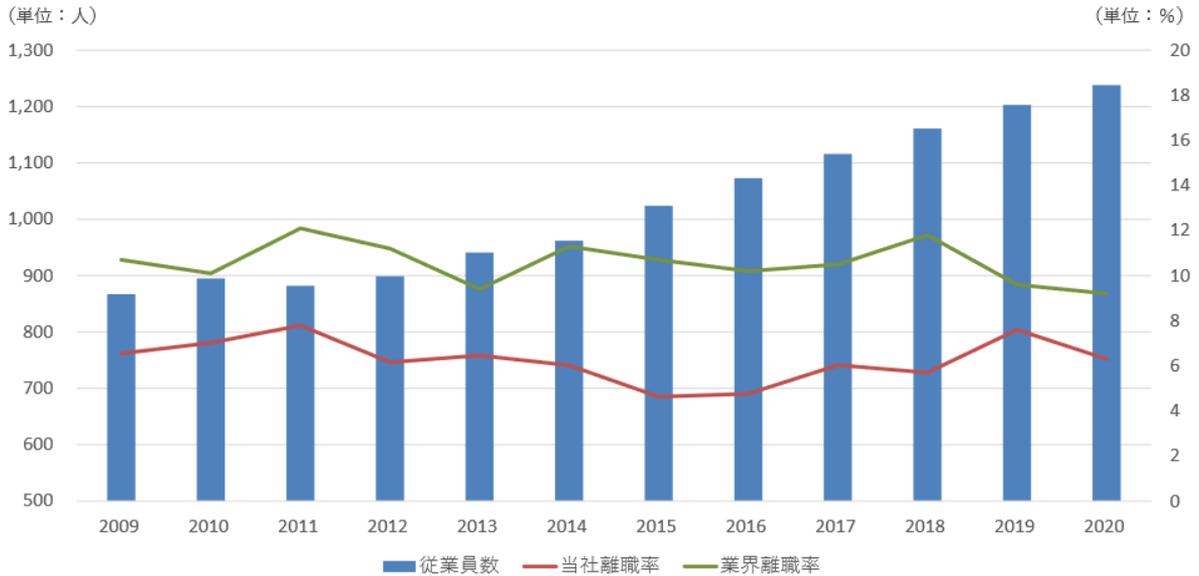
若干この三次電池の実証実験におきましては、状況については年度末に皆さんのほうには、またどういふ状況かは説明させていただこうと思っておりますが、今のところは変わらず実証実験の最中であると。ただ、実際の計画よりは若干遅れているのが現状であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



従業員数は「採用活動強化」と「求職者への企業魅力付け」により堅調に増加



※業界離職率は「雇用動向調査結果の概要」(厚生労働省)より抜粋 ※当社離職率は年度、業界離職率は年を基準としている。

続いて、従業員数と離職率の推移です。ご覧のように当社の離職率というのは今、大体7%ぐらいですかね。業界に比べると低いのがこのグラフでわかると思うんですけども、社員も毎年毎年、今、80名ぐらい採用しております。

ただ各現場においてはどうしても今の時期、人が足りないのはありまして、よりそれだけ仕事が潤沢にあるとは言えると思うんです。

そういった意味も含めまして来年度以降、再来年度以降、本当に今の採用の人数でいいのかと。それともさらに50名、100名単位で増やして採用するのは、今後、現場と話し合っ、会社としての方針も決めていかなくてはならないかなと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



- 過去最高の売上高・利益となる業績予想は据置き。
- 当期は中間配当を実施し、1株当たりの年間配当金は「25.00円」となる見込み。

	2021/3期 実績 (百万円)	2022/3期 予想 (百万円)	前期比増減率 (%)
売上高	23,485	24,500	4.3
営業利益	1,450	1,480	2.1
経常利益	1,469	1,500	2.1
当期純利益	1,025	1,030	0.5

	2021/3期 実績	2022/3期 予想
1株当たり当期純利益 (円)	68.08	68.37
1株当たり配当金 (円)	24.00 (内訳) 普通配当 20.00 特別配当 4.00	25.00 (内訳) 中間配当 5.00 期末配当 20.00
配当性向 (%)	35.3	36.6

16

© 2021 Focus Systems Corporation

46期、今期の着地点なんですけれども、今のところまだ計画どおりで発表させていただいております。

まず売上高に関しましては245億円、営業利益が14億8,000万、経常利益が15億、そして当期純利益が10億3,000万というかたちで、昨年度を若干上回る計画を出させていただいております。

実際、これを超えるべく今のところ進めているわけなんですけれども。実際これが大幅に超えるようになったときには、発表もきちんとしていきたいなと思っていますので、そうなるように今のところ頑張っている状況です。

そして配当ですけれども、今回中間配当実施させていただきました。5円配当です。こちら5円と期末の20円と合わせまして、今年度に関しましては25円配当を今のところ計画しております。

当然このまま、上期のような実績が順調に伸びていくということであれば、またこの配当も、ぜひ株主の皆さんには還元ということも含めて、また考えていきたいなと思っています。

いずれにしましても、フォーカスシステムズの第2四半期の決算は、非常に順調に推移しています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

実際のコロナ禍ということもありますけれども、そういうのにも一つ一つのプロジェクトごとにはコロナの影響を受けているところ、また受けていないところ。

また材料、半導体が特に不足していますので、そういったところでプロジェクト自体が若干延期になっているところ、縮小になっているところもありますけれども、そういうのも含めて、全体としては非常に良い状況で推移しているのが現状であります。

ですので、このようなかたちで今年度の末を迎えられるように、また頑張っていきたいなと思いますので、今後もぜひ応援のほど、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第46期第2四半期の決算説明を終了いたします。ご視聴ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

